

中国の核戦力一覧

【概要】

中国は、NPT加盟核兵器国の中で唯一、弾頭数を増やしている国である。しかし、増加の速度は緩やかであり、従来の核戦略の延長上にある変化と考えられる。同じ著者による弾頭数の推定が、2015年8月に250から260に (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)、さらに2017年4月に270に増加した (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2017)。地上配備弾道ミサイルの一部の多弾頭化に起因するところが大きい。多弾頭化はミサイル防衛に対抗する手段とされる。中国は一貫して核兵器の先行不使用方法を取っており (Ministry of National Defense, PRC 2015)、そのために報復核戦力の生き残り可能性を強める兵器近代化に取り組んでいる。量ではない部分で、多弾頭化の進行や戦略原子力潜水艦の抑止パトロールの開始に伴う今後の動向に注目する必要がある。また中国の核兵器に関する透明性の向上が求められる。表の弾頭数 (すべて概数) は、断りのない限り文献 (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2016) によっている。米本土に届く長距離弾道ミサイルの弾頭数は、約75発である (DF-5A、DF-5B、DF-31A)。中国の核兵器関連予算は2016年において87万ドルであると推定されている (Zhang, Hui 2018)。

2018年6月1日現在

印刷用PDF

名称	NATO名	射程(km)	核弾頭の威力 (キロトン)	核弾頭数	備考
作戦配備				0	1)
作戦外貯蔵				240	2)
地上配備弾道ミサイル 3)				173	4)
東風 DF-3A	CSS-2	3,000	3,300	?	5)
東風 DF-4	CSS-3	5,500 +	3,300	10	6)
東風 DF-5A	CSS-4 M2	13,000 +	4,000-5,000	5	7)
東風 DF-5B	CSS-4 M3	13,000 +	3×200-300	45	7)
東風 DF-15	CSS-6	600	?	?	8)
東風 DF-21	CSS-5	2,150	200-300	80	9)
東風 DF-26	?	4,000 +	200-300	?	10)
東風 DF-31	CSS-10 M1	7,000 +	200-300 ?	8	11)
東風 DF-31A	CSS-10 M2	11,000 +	200-300 ?	25	12)
東風 DF-41	CSS-X-20	?	?	?	13)
地上発射巡航ミサイル				?	
DH-10	CJ-10	1,500 +	?	?	14)
潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)				48	15)
巨浪 JL-1	CSS-NX-3	1,000 +	200-300	0	16)
巨浪 JL-2	CSS-NX-14	7,000 +	200-300 ?	48	17)
航空機搭載爆弾				20	
核爆弾				20	18)
空中発射巡航ミサイル					
DH-10	CJ-10	1,500 ?	?	?	19)
DH-20?	CJ-20?	?	?	?	20)
退役・解体待ちなど				30	21)
全保有数				270	

【脚注】

- 核弾頭はミサイルと別に貯蔵されているので、作戦配備ではなく作戦外貯蔵と見なす。(Kulacki, Gregory 2011; Kristensen, Hans & Norris, Robert S. 2016)
- 241を丸めた。
- DF-4、DF-5A、DF-5B、DF-31、DF-31Aは大陸間弾道ミサイル (ICBM、射程5,500 km以上)、DF-15は短距離弾道ミサイル (SRBM、射程1,000 km以下)、他は中距離弾道ミサイル (IRBM、射程1,000-5,500 km)。後者のうち3,000 km以下のものを準中距離弾道ミサイル (MRBM) と呼ぶこともある。
- カーンズ (Kearns, Ian 2011) は130-140、カラーキー (Kulacki, Gregory 2011) は155、チャン (Zhang, Hui 2015) は120と推定している。
- 東風はドンフォンと読む。液体燃料。移動型。米国情報機関によれば単弾頭。1971年に配備。退役途上であり、DF-21に置き換えられつつある (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)。弾頭数を5 (Zhang, Hui 2015) と見積もる研究者もいる。
- 東風はドンフォンと読む。液体燃料。移動型。全て、または一部がトンネル内に配備。米国情報機関によれば単弾頭。80年に配備。インド、ロシアの一部、グアムに届く (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)。DF-31に置き換えられつつある。弾頭数を17 (Kearns, Ian 2011)、10 (Zhang, Hui 2015) と見積もる研究者もいる。
- 東風はドンフォンと読む。液体燃料。サイロ型。米国情報機関によれば単弾頭。81年配備。80年代初期以来、米国、ロシアを標的とした (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)。最新の米国防総省の報告書は、M3型として多弾頭のものがあると初めて記述した (Office of the Secretary of Defense 2015)。2016年の同報告書も同内容を再確認した (Office of the Secretary of Defense 2016)。ここでは、DF-5Aの5基が新しく多弾頭3のDF-5Bになったと計算した。結果として多弾頭ICBMは15基となる。
- 米国CIAが、1990年8月の核実験が短距離弾道ミサイル用の弾頭開発の可能性があるとし、1993年9月には翌年に配備が始まると推定した。DF-15は大部分、核・非核両用と考えられる。弾頭数について推定できない。(Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)
- 東風はドンフォンと読む。旧式M1の射程は1,750 kmだが、新式M2の射程は2,150 kmと推定される (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)。中国の中距離ミサイルの主力。固体燃料、2段式。移動型。米国情報機関によれば単弾頭。81年に配備。徐々に DF-3A、DF-4と置き換えられている。弾頭数は55-60 (Kearns, Ian 2011)、60 (Zhang, Hui 2015) との見積りもある。通常弾頭のDF-21もあり、核兵器用のミサイルのみで約80基と見積もられる。
- 東風はドンフォンと読む。2015年の軍事パレードに16基登場。射程4,000kmの道路移動型ミサイル。核・非核両用と考えられる (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2016)。
- 東風はドンフォンと読む。固体燃料、3段式。移動型。2006年初期配備。米国情報機関によれば単弾頭。弾頭数を10-15 (Kearns, Ian 2011) と見積もる研究者もいる。よく分らない理由で、配備の増加が中断している。米国防総省は射程を7,200+kmと推定 (Office of the Secretary of Defense, 2013)。
- 東風はドンフォンと読む。固体燃料、3段式。移動型。道路移動とレール移動の両方がある (Gertz, Bill 2016)。2007年配備。米国情報機関によれば単弾頭。単弾頭だが、ミサイル防衛に備えておとりなどを伴うと考えられる。文献によると、6-10弾頭の多弾頭化が可能であり、2016年4月19日、道路移動式発射台から2弾頭の発射テストが行われたことを米国防総省が確認した (Gertz, Bill 2016)。弾頭数を10-15 (Kearns, Ian 2011) と見積もる研究者もいる。米国防総省は射程を11,200+kmと推定 (Office of the Secretary of Defense 2015)。

- 13) 東風はドンフォンと読む。開発中の道路移動型。1997年に米国防総省が報告していたが、その後記述がなかった。2014年に復活。多弾頭の可能性 (Office of the Secretary of Defense 2016)。固体燃料と考えられる (Gertz, Bill 2016)。
- 14) 地上発射対地攻撃巡航ミサイル。米空軍はその核能力について「通常あるいは核」能力と述べたことがある。ミサイル数は不確定 (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)。米国防総省は射程を1,500+kmと評価 (Office of the Secretary of Defense 2016)。
- 15) これらを搭載する2種類の原子力潜水艦 (夏 (シア) 級と晋 (ジン) 級) があったが、夏 (シア) 級は退役したと考えられる (次項参照)。晋 (ジン) 級の4隻が現役、5隻目を建造中 (Office of the Secretary of Defense 2016)。しかし、戦略抑止バトロールが始まっているか否かははっきりしない。米国は2016年に始まると予想 (Office of the Secretary of Defense 2016) していたが、その後の情報は無い。平時パトロールは、中国の基本ドクトリンの変更を必要とするともに、新しい通信システム、指揮・統制の技術システムも必要と考えられる (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2016)。
- 16) 巨浪はジュランと読む。単弾頭。1986年に配備。戦略原潜・夏 (シア) 級 (中国名: 大慶魚、092型) に搭載であった。原潜とともに一度も使われることなく退役したと考えられる (Office of the Secretary of Defense 2015; Office of the Secretary of Defense 2016)。弾頭は退役した弾頭に数えた。
- 17) 巨浪はジュランと読む。単弾頭。DF-31の変形。新世代原潜・晋 (ジン) 級 (094型) に搭載するSLBM。12発射管。発射テストに失敗していたが、2013年に発射テストに成功。米国情報機関は、2013-14年に初期作戦能力を達成すると予想していた (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)。ここでは4隻用のミサイル48基が生産済みと推定。
- 18) 爆撃機「轟 (ホン)」H-6 (NATO名: B-6) 100-120機のうちの20機が核任務を持つと推定。戦闘半径3,100 km。1965年配備。ソ連のTu-16 (バジャー) の変形だが現在も高性能化が進んでいる (Office of the Secretary of Defense 2016)。また、戦闘爆撃機が核実験に使われたことがあるが、実戦配備されたか否かは不明 (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015)。
- 19) 地上発射。米空軍情報機関は核・非核両用と推定している。米軍は2011年に4軸3装の発射台が40-55基、ミサイルが200-500発と見積もっていた (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2016)。
- 20) 空中発射。開発中。改良型戦闘爆撃機「轟 (ホン)」H-6に搭載予定。米空軍グローバルストライク軍が核能力ありと推定。しかし、米国防省内で統一した記述がない (Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2016)。
- 21) DF-3A、JL-1など退役・解体待ちなど。

【出典】

- Gertz, Bill 2016:** "China Flight Tests New Multiple-Warhead Missile," The Washington Free Beacon, April 19, 2016. <http://freebeacon.com/national-security/china-flight-tests-multiple-warhead-missile/> (accessed May 17, 2018)
- Kearns, Ian 2011:** "Beyond the United Kingdom: Trends in the Other Nuclear Armed States," BASIC Trident Commission, November 2011. Numbers are cited from Holslag, Jonathan 2010: "Trapped Giant: China's Military Rise," IISS, 2010)。 <http://www.basicint.org/sites/default/files/commission-briefing1.pdf> (accessed May 17, 2018)
- Kristensen, Hans M. 2013:** "Chinese Nuclear Developments Described (and Omitted) by DOD Report," FAS Strategic Security Blog, May 14, 2013. <https://fas.org/blogs/security/2013/05/china2013/> (accessed May 17, 2018)
- Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2011:** "Chinese Nuclear Forces, 2011," Bulletin of the Atomic Scientists, Vol. 67, #6, 2011. <http://bos.sagepub.com/content/67/6/81.full> (accessed May 17, 2018)
- Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2013:** "Chinese Nuclear Forces, 2013," Bulletin of the Atomic Scientists, Vol. 69, #6, 2013. <http://bos.sagepub.com/content/69/6/79.full> (accessed May 17, 2018)
- Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2015:** "Chinese Nuclear Forces, 2015," Bulletin of the Atomic Scientists, Vol. 71, #4, 2015. <http://bos.sagepub.com/content/71/4/77.full.pdf+html> (accessed May 17, 2018)
- Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2016:** "Chinese Nuclear Forces, 2016," Bulletin of the Atomic Scientists, DOI: 10.1080/00963402.2016.1194054 <http://dx.doi.org/10.1080/00963402.2016.1194054> (accessed May 17, 2018)
- Kristensen, Hans M. & Norris, Robert S. 2018:** "Status of World Nuclear Forces 2017," FAS Nuclear Information Project <https://fas.org/issues/nuclear-weapons/status-world-nuclear-forces/> (accessed May 17, 2018)
- Kulacki, Gregory 2011:** "China's Nuclear Arsenal: Status and Evolution," Union of Concerned Scientists, May 2011. <http://www.ucsusa.org/assets/documents/nwgs/UCS-Chinese-nuclear-modernization.pdf> (accessed May 12, 2016)
- Ministry of National Defense, PRC 2015:** "China's Military Strategy," May 2015 http://eng.mod.gov.cn/Press/2015-05/26/content_4586805_4.htm (accessed May 17, 2018)
- Office of the Secretary of Defense 2013:** "Annual Report to Congress: Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2013," May 2013. http://www.defense.gov/pubs/2013_China_Report_FINAL.pdf (accessed May 29, 2015)
- Office of the Secretary of Defense 2015:** "Annual Report to Congress: Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2015," April 2015. http://www.defense.gov/pubs/2015_China_Military_Power_Report.pdf (accessed May 17, 2018)
- Office of the Secretary of Defense 2016:** "Annual Report to Congress: Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2015," April 26, 2016. <http://www.defense.gov/Portals/1/Documents/pubs/2016%20China%20Military%20Power%20Report.pdf> (2018.5.17)
- Zhang, Hui 2018:** Chapter 'China', "Assuring Destruction Forever: 2018 edition," edited by Allison Pytlak, 2018, Reaching Critical Will. <http://www.reachingcriticalwill.org/images/documents/Publications/modernization/assuring-destruction-forever-2018.pdf> (accessed May 17, 2018)